

# 雪害対策

## 1月

### 麦

排水溝の点検、整備、清掃をして、雪解け水による湿害を防ぐ。

### 茶

雪の積もった樹は、無理に雪を除くと低温害を助長するので、そのままにしておく。

### 野菜

#### 1 施設の雪害対策

パイプハウス、特に無加温ハウスでは、積雪による倒壊、天井部の陥没防止のため、棟パイプを支える補強用の支柱の設置、棟・母屋パイプの外れ防止のための補強を行うとともに雪下ろしを行う。

夜間に降雪のおそれがある場合、暖房のできる温室では最低温度を10℃程度に上げて融雪させる。内張りをしている場合は、天ビニールと内張りの空間の温度が上がりにくく、雪を溶かしにくいので、融雪を優先するために、谷部分を適度に空けて、暖かい空気をこの空間に行くようにするか、谷部分に、暖房機の子ダクトを内張りと天ビニールとの間に設置すると、天ビニールや谷に積もった雪を溶かしやすくなる。大雪の場合、積雪荷重による倒壊等を防ぐため補強を行う。

連棟ハウスや近接して建てられたハウスでは、谷部分やハウス間に雪下ろしや落下した雪が溜まり、横荷重により倒壊する場合があるので、可能な限り除雪を行う。

温室に積もった雪への散水による融雪は、一時的に荷重が増し倒壊に繋がることもあるために行わない。

#### 2 施設野菜全般

特に緊急防除の必要はないが、低温時の液剤散布はかえってハウス内の湿度を上昇させ病害の発生を助長するので、適用作物に注意し、燻煙剤などを利用する。

#### 3 イチゴ・キュウリ等果菜類

灰色かび病の発生が増加する可能性があるので注意する。発生が認められた場合は燻煙剤などを用いて防除するとともに、ハウス内湿度を増加させないようにする。

#### 4 露地野菜全般

凍害や低温障害のおそれがあるので、降雪前に収穫可能なものは、できるだけ収穫する。

ブロッコリーやナバナなどのアブラナ科野菜は比較的低温に対する耐性はあるが、出蕾している場合は凍害や低温障害のおそれがある。また、青ネギなどの葉菜類では降雪荷重による葉折れの発生が懸念される。これらの作物では、障害を受けた部分から細菌性病害の発生が懸念されるので、融雪後に登録農薬を散布する。この場合、適用作物や収穫までの日数および散布による汚れに注意する。

ナバナ等収穫の続く野菜は、出荷不可能となった部分を除去して草勢の回復に努める。

アブラナ科野菜は湿害に弱いため排水対策を十分に行う。

#### 5 レタス

ビニールトンネルの潰れ防止のために雪下ろしを行う。トンネルの上に不織布等を掛けると雪が結着し、潰れを早めるので行わない。

また、ビニールトンネルの潰れ、ビニールの破損が生じたほ場では、融雪後に腐敗病や斑点細菌病の増加が懸念されるので適宜防除を行う。散布にあたっては、収穫の近いほ場では、収穫までの日数および散布による葉の汚れに注意する。

## 果 樹・オリーブ

### 1 当面の対策

#### 1) 施設の雪害対策

- ①パイプハウスなど雪の重みに弱い構造の施設は、倒壊を防ぐため中央部に支柱を立てるとともに雪下ろしを行う。
- ②暖房施設がある場合は、作物の適温域の加温によって積もった雪を溶かす。
- ③雪を溶かすための屋根への散水は雪が溶けにくく、水の重さも加わって逆効果になるおそれがあるので注意する。

2) 柑橘については、樹体を寒冷紗等で被覆することにより、寒風害による落葉を軽減できる。寒風害の発生が懸念される園地では幼木、樹勢低下樹、前年の結果過多樹、園地の風上部分等被害が発生しやすい樹体だけでも、被覆を行う。

3) 現在、着果している中晩柑については、低温遭遇による果肉のす上り、苦味の発生が懸念される。収穫可能な果実は早急に収穫する。

4) 降雪が多い場合、樹冠上の雪は早急にふり落とす。(枝の荷重軽減と、夜間冷却時に雪が凍結核になって果実が凍結するのを防止するため)

### 2 今後の対策

1) 収穫しきれなかった中晩柑果実については、被害程度に応じて区分収穫、区分貯蔵を行う。

2) 凍害が発生した場合、柑橘については発芽状況を確認できるまで剪定を遅らせ、被害部位を確認して切り返しを行う。ビワについては、花房や幼果の被害状況を確認できる時期まで摘果、袋掛けを遅らせる。

3) 常緑果樹などで、雪の重さによって枝が裂けた場合、剪定後に癒合剤等を傷口に塗布する。

## 花 き

### 1 施設の雪害対策

1) パイプハウス、特に無加温ハウスでは、積雪による倒壊、天井部の陥没防止のため、棟パイプを支える補強用の支柱の設置、棟・母屋パイプの外れ防止のための補強を行うとともに雪下ろしを行う。

2) 暖房施設がある場合は、作物の適温域の加温によって積もった雪を溶かす。

3) 雪を溶かすための屋根への散水は、一時的に荷重が増し倒壊に繋がる可能性があるために行わない。

4) 施設周囲の排水を図り、雪解け水によるハウスサイド付近の土壌水分過多を防ぐ。

5) 積雪による日照不足や過湿により軟弱になった植物は、天候回復後の強光線によって葉焼けなどが起きやすいため、遮光を行って徐々に光に慣らす。

6) 日照不足や過湿により灰色かび病などが発生しやすいので、換気を図り、薬剤散布を早めに行うとよいが、液剤散布はかえってハウス内の湿度を上げるので、適用作物に注意して燻煙剤等を用いる。

### 2 低温対策

1) キクでは低温による高所ロゼット発生の徴候がみられたら、茎頂部を中心に50~75ppmのジベレリンを散布するとともに、伸長が始まるまで昼の換気開始温度、栽培温度とも高くする。

## 畜 産

冬の低温環境下における生産効率の低下等を抑えるため、幼畜に対しては畜種や生育段階に適した保温に努めることとし、すきま風を防ぎ、畜舎内温度の保持と換気に留意する。

低温時の凍結の防止に努め、家畜への飲水及び搾乳機器等の洗浄水を確保する。

積雪などによる停電によって搾乳作業等に支障ないようにするため、発電機などの点検をする。